

[4] 2008年9月国立公文書館蔵 薩摩・備前国絵図 調査報告

National Archives of Japan Survey: 1 – Satsuma and Bizen

調査概要		梅田千尋
1. 元禄薩摩国絵図	特 083-0001-137	梅田千尋
調査所見／所見項目表／所見地図／紙継図		
2. 天保薩摩国絵図（紅葉山本）	特 083-0001-138	田中葉子・橋本暁子
調査所見／所見項目表／所見地図／紙継図		
3. 天保備前国絵図（勘定所本）	特 083-0001-96	横地留奈子
調査所見／所見項目表／所見地図／紙継図		

参加メンバー

分担		メンバー
統括		杉本史子(東京大学史料編纂所)
科学的調査		早川泰弘・吉田直人(東京文化財研究所)
顕微鏡画像撮影		村岡ゆかり(東京大学東京大学史料編纂所)
赤外線撮影		荒井 経(東京学芸大学)
ビデオ撮影		降旗千賀子(目黒区美術館)
書誌事項観察・記録	統括	高島晶彦(東京大学史料編纂所)
		小野寺淳(茨城大学)
		国木田明子(神戸市立博物館)
		鈴木純子(元国会図書館地図室)
	とりまとめ	橋本暁子(筑波大学博士課程)
		田中葉子(東京大学史料編纂所)
内容分析・記録	統括	磯永和貴(東亜大学)
		平井松午(徳島大学)
		中野等(九州大学)
		野積正吉(射水市新湊博物館)
		倉地克直(岡山大学)
		青木充子(国絵図研究会)
	とりまとめ	横地留奈子・梅田千尋・小関悠一郎(東京大学東京大学史料編纂所)

調査概要

調査日時 平成 20 年(2008)9 月 9 日～10 日

場所 国立公文書館四階会議室

調査対象資料

元禄薩摩国絵図 特 083-0001-137 1 点 414×781

天保薩摩国絵図（紅葉山本）特 083-0001-138 1 点 367×768

天保備前国絵図（勘定所本）特 083-0001-96 1 点 373×319

調査の趣旨

科学研究費補助金・基盤（A）「地図史科学の構築—前近代地図データ集積・公開のために—」（代表・杉本史子 2006～2009 年）では、これまで高知市民図書館・ライデン大学図書館・山口県図書館・岡山大学付属図書館において、国絵図原本について、歴史学・地理学・美術史・日本画家・古文書修復家・科学史など多分野の専門家が数日間共同して、その使用材料（紙、着色材料）、仕立て方（紙一枚ずつの大きさ、継ぎ方）、描写方法（へら跡、筆致、色）、内容検討の各分野から、綿密な総合調査を行ってきた。

今回は、詳細目視調査を行い、色料記録のため赤外線撮影・高精細デジタル撮影、無色描写（へら跡・角筆・針穴など）記録のためにビデオ撮影を行った。なお、詳細目視調査では、使用材料（紙、着色材料）、仕立て方（紙一枚ずつの大きさ、継ぎ方）、描写方法（へら跡、筆致、色）、内容検討を目視により行うものである。

調査方法

冒頭のメンバー表のように確認項目を分担して地図を熟覧した。また、各人の分担外の事項についても、適宜地図カラーコピー及び調査カードなどに記録し、集約した。

薩摩国絵図に関しては島津家文書、備前国絵図については池田家文庫の関連絵図の画像を準備し、適宜参照しながら比較を行った。

全体の流れ		色料検討 村岡・荒井・降旗 キーエンス高精細画像を見ながら目視で色料検討	書誌検討 高島・小野寺・国木田・鈴木(10日)橋本(9日記録)・田中(10日記録)	内容検討 磯永・平井・中野・倉地・青木・野積(10日)・横地(9日記録)・梅田・小関(10日記録)
		調査ポイント・特徴的描写の箇所については、赤外線撮影、ビデオ撮影(特にヘラ跡など)	調査をとりながら検討	
		↓	吉田調査	

調査順	各調査のポイント
1 薩摩天保国絵図(勘定所本)	1・2比較=紅葉山本と勘定所の描写・書誌(紙端折り返しなど)異なるか?
2 備前天保国絵図(紅葉山本)	○島津家・天保国絵図と比較?
3 薩摩元禄国絵図	○天保勘定所図・プリントアウトと比較 ○池田・元禄図プリントアウトと比較
	○島津家・元禄国絵図プリントアウトと比較

調査用画像資料一覧

薩摩	島津家 正保 76-2-2	国立公文書館 なし	
	元禄 76-2-1	特83-1-137	インタネット→配布(3分割)
	天保 76-1-1~15	紅葉山)特83-1-138 なし	インタネット→配布(3分割)
備前	池田家文庫	国立公文書館 なし	
	正保 T1-20-1、T1-19-1	なし	
	元禄 T1-20-1、T1-19-1	紅葉山)特83-1-97	インタネット→比較用画像
	天保 T1-20-1、T1-19-1	勘定所)特83-1-96	注文中

国立公文書館調査

各図調査所見

【凡例】

- ・ 目視調査による各絵図の所見を絵図ごとにまとめた。
- ・ 「調査所見」は、目視調査によって得た情報を、以下の各項目に分けてまとめたものである。
 - ① 紙拵え・・・日本画・古文書修復の観点から得られた、使用材料（紙、着色材料）・仕立て方（紙一枚ずつの大きさ、継ぎ方）についての所見。
 - ② 地図情報・・・A：保存状態や伝来過程に関わる情報、B：絵図の作成技法や描かれた手順に関する情報、C：画像・文字記載情報
- ・ 目視調査によって得た個々の所見項目は、番号を付して地図上に書き込まれている。各項目の詳細な内容は「所見項目表」の対応する番号を参照のこと。また、各項目の内容を、「A：保存・伝来」＝黄色、「B：絵図作成手順」＝赤、「C：画像・文字記載情報」＝白（地色が薄い部分は黒）として分類し、色分けで示した。
- ・ 「紙継図」は、各図の紙拵えを記録したもの。赤実線は紙の表面に表れた継ぎ目を、赤破線は継ぎ目の下になった部分を示す。
- ・ 針穴など特徴的な内容を含む絵図については、別途図を作成した。
- ・ 図版はいずれも、各図担当者が作成した。

1. 元禄薩摩国絵図調査所見

特 083-0001-137

梅田千尋

調査日：2008年9月10日

架蔵番号：特 83-0001-137（下総・元禄）

図名：（表紙）「図不薩摩国」 367×768cm

①紙拵え

○料紙

触った感触：硬い。つるつる感あり。

○折返：有、幅1cm（縦横とも）

○裏打ち：虫食い・亀裂にあて紙をしてさらに裏打ちしたか、あるいは裏打ちの上にあて紙をした痕跡。後者が有力か。

○表紙：有 69×66「図不薩摩国」

○蔵書印：有 「内閣文庫」印

②地図情報

A：保存・伝来

- ・絵図は、折りたたみ幅 69×66cm で畳まれて保管。
- ・裏書「此上り御絵図出来候件日州御絵図之裏書記者也」

B：絵図作成手順

*画面・技法など

- ・絵図面に板目有り、製紙過程の特色か。
- ・マスキング跡有。島の縁など輪郭線できちんと塗りきっていない部分も。マスキングの難しさを示すか。(53, 84, 95)
- ・描き方の技法①島などに紙でマスキングする→②海上及び隣国色分けを一気に塗る（板を渡す？）→③絵画表現や小判型を描く（上に乗る？板をおいても描けるが、座布団のようなものを置いて描いたのかも）→④文字を入れる
- ・山の色が海の部分にはみ出ており、海（青〔藍〕）を先に着色か。(80)
- ・東西の刷毛目、色むら無し。上から板を渡して彩色か？
- ・紙継について、表紙裏打ちが喰先継ぎ、ケバ立ちで貼り合わせてある。表は2分5厘で継いである。石垣継箇所有。

*下書き

- ・ヘラによる下書き・印付箇所・・・村型・道・郡境などにヘラ痕有り。(16, 68, 69-73, 86, 109)
- ・航路などの朱線に墨で下書跡。(5, 6, 10, 106, 108)
- ・一里塚（朱色）を墨で下書きの印付。(28, 65, 67, 74)

*刃穴・針穴

- ・細い穴／刃穴／針穴の分布。穴の上から彩色した箇所もあり。(90-93, 107)

C：画像・文字記載情報

*文字

- ・村型の色とライ紙の色が異なる
- ・「肥後国」などの文字、目録の文字は東大本（島津家本）地図とは異なる。

*村形

- ・難読の村名にふりがな有り。島には無しカ。(20, 23, 25, 26, 27)
- ・「肥後国」などの文字、目録の文字は東本地図とは異なる。
- ・村型の色が薄い部分もあり。自然剥離・褪色？元々の描き分け？(7, 11, 41, 42, 43)

*島・海・航路

- ・島の崖・海岸線の表現などが細かい。遠干潟・潮入りの描写も有り、海岸の状態を絵画的な描写で描き分けに。(2, 4, 9, 32, 81)
- ・入り江・浦など、船繋ぎ数まで細かく記載している。入港船数を記載。(3, 31)
- ・「埋瀬」を色分けし、文字情報も含めて詳細に書き込み。満潮のみ水没する埋瀬＝土色／干潮時も水没している埋瀬＝白色で塗り分けか？(38, 39, 83, 85, 88)
- ・島（島廻）・「人居有」の記載有り。火山＝活火山を白煙で描写カ。(89, 94, 96-98, 101)
- ・海上に描かれた航路の表記と海上距離の表記を峻別。下甕嶋からの航路・距離は文字のみで朱線表記は無し。(37, 40, 56, 60, 61, 99)
- ・南部の海上に潮流の表現有り、「此波昼夜共潮東江落ス」「山川湊より琉球国未ノ方ニ当ル」「とから嶋より大嶋之内ふかいか浦迄海上三拾五里巳之方ニ当ル此波昼夜共潮東江落ス」など。
- ・「山川湊より琉球国未ノ方ニ当ル」など琉球情報も書き込み。
- ・陸路よりも海・島に関する情報量が多い。特に船・航路・風向きや埋瀬などの航路情報。島への距離など。薩摩国絵図の特徴か？

*陸上交通

- ・橋・歩渡りを区別している。(21, 24, 45, 46, 48, 49, 51)

*山・林など

- ・山形の点描が細かい。絵師の技術が高く、山の質感が表現されている。点描は特殊な道具を使用したものか。(36, 72)
- ・木立を後から消去した箇所有。松・杉の書き分けなど、植生を反映か。(29, 30, 33, 79, 82)
- ・池の色に濃淡有り。色分けの根拠は？(75, 76, 78)

(文責：梅田)

元禄薩摩国絵図(国立公文書館所蔵 特083-0001-137)<詳細所見>

*「表記」は後掲地図上の表記と、「見出し」は前ページの調査所見の項目に一致する。なお、番号は後掲地図に対応。

*A(黄) 保存・伝来:蔵書印、破損、修復／B(赤) 絵図作成手順:裏打ち、針穴、マスキング／C(黒/白) 画像・文字記載情報:ほかの絵図との比較、変色も含む。

番号	表記	分類	見出し	内容	比較対象	記載者
1	折返	B	紙捲え	1cm折り返し(辺全体)		梅田
2	崖の描写	C	島・海・航路	海岸に線で崖を示す。海岸線の詳細な描写。		小関
3	入船船数	C	島・海・航路	入港船数を記載。「此福浦湊廣三町入老五町深拾五尋北風之時船繋り不成大船式百艘程繋ル」など。		小関
4	崖の描写	C	島・海・航路	海岸に線で崖を示す。海岸線の詳細な描写。		小関
5	航路線に下書	B	下書き	航路朱線の下に黒線の下書きあり		田中
6	航路線に下書	B	下書き	航路朱線の下に黒線の下書きあり		田中
7	村形の色	C	村形	蔵本村の村型の中半分が白色		小関
8	折返	B	紙捲え	折り返し(辺全体)		梅田
9	浜の描写	C	島・海・航路	浜辺は色が薄く、グラデーションで描写(くっきりとした海岸線と対照)		小関
10	航路線に下書	B	下書き	航路朱線の下に黒線の下書きあり		田中
11	村形の色	C	村形	武本村・高尾野村・知識村、着色が薄い		小関
12	裏打・当紙	A	紙捲え	虫食い・亀裂にあて紙をしてさらに裏打ちしたか、あるいは裏打ちの上にあて紙をした痕跡。後者が有力カ。		梅田
13	塗りの技法	B	画面・技法	刷毛ムラのない均一な仕上がり(独特の技術?)		梅田
14	穴	B	画面・技法	穴(目打ち、木札を吊した穴カ)。絵図端(水平・東方向)からの距離8.7cm、北から2.2cm。		梅田
15	折返	B	紙捲え	1cm折り返し(辺全体)		梅田
16	亀裂	A	保存・伝来	亀裂		梅田
17	ヘラ跡	B	下書き	国境にヘラ跡		梅田
18	亀裂	A	保存・伝来	亀裂		梅田
19	文字薄い	C	文字	文字墨書、やや薄い(「三国境 三州木場峠」)		田中
20	村名ルビ	C	文字	村名にルビあり(大儀寺(ダイギジ)村・蓮辺(ハツへ)村)		田中
21	橋	C	陸上交通	池田橋		田中
22		—	—	—(項目重複削除)		田中
23	ルビ	C	文字	村名にルビあり(下殿シモトノ村)		田中
24	歩渡	C	陸上交通	歩渡り		梅田
25	ルビ	C	文字	村名にルビあり(宮人八代(ミヤシトヤシロ)村・(神子村も?))		田中
26	ルビ	C	文字	村名にルビあり(紫尾(シビ)村)		田中
27	ルビ	C	文字	村名にルビあり(白男川(シラカワ)村)		田中
28	一里塚	B	下書き	一里塚の墨の下に朱で印か		田中
29	木立	C	山・林など	木立をあとから消している?		田中
30	松	C	山・林など	松と杉の書き分け		田中
31	船	C	島・海・航路	「船300隻」などの船舶情報		梅田
32	潮入	C	島・海・航路	潮入り、色を変えて描写か?		倉地
33	杉	C	山・林など	杉木立、松などと区別し細かく書き分け		梅田
34	堤	C	島・海・航路	干拓のための堤カ		田中
35	朱の汚れ	A	保存・伝来	朱の汚れ付着		田中
36	点描	C	山・林など	山の描写=点描(特殊な道具の使用による描写カ)		梅田
37	航路無し	C	島・海・航路	「下甌嶋ヨリ海上七里」但し下甌嶋からの航路・距離の朱線表記は無し。		小関
38	埋瀬	C	島・海・航路	埋瀬の表記(着色あり)		梅田
39	埋瀬	C	島・海・航路	埋瀬の表記(着色あり)		梅田
40	航路無し	C	島・海・航路	「下甌嶋ヨリ海上拾四里」但し下甌嶋からの航路・距離朱線表記は無し。		小関
41	村形色が薄い	C	村形	村形の色が薄い		田中・小関
42	村形色が薄い	C	村形	村形の色が薄い		田中
43	村形色が薄い	C	村形	村形の色が薄い		田中
44	青剥離	A	保存・伝来	村形の青色剥離		田中
45	橋	C	陸上交通	橋		田中
46	橋	C	陸上交通	橋		田中
47	城名	C	陸上交通	東向きに城名書き込み。他図には城名のみのももの有り。		田中
48	橋	C	陸上交通	橋		田中
49	橋	C	陸上交通	橋		田中
50	字体違う	C	文字	この部分のみ細めの字体		田中
51	橋無し	C	陸上交通	橋無し		田中
52	ヘラ跡	B	下書き	ヘラ跡		田中
53	ハミ出し	B	画面・技法	色のはみ出し(マスキングによるものか)		梅田
54	石垣継	B	紙捲え	石垣継ぎ(厚みなし)		梅田
55	ヘラ跡	B	下書き	ヘラ跡(朱線から少しズレ)		磯永・小関・田中
56	距離表示	C	島・海・航路	海上距離表示		磯永
57	石垣継	B	紙捲え	石垣継ぎ		梅田
58	糊代小さめ	B	紙捲え	紙継ぎ糊しろ小さめ(南北方向と比較)		梅田
59	墨で朱線下書	B	下書き	朱線下に薄い墨線		田中
60	距離表示	C	島・海・航路	海上距離表示		磯永

61	距離表示	C	島・海・航路	海上距離（航路の朱線のみでなく、島への距離を書いた際の朱線もあり）		磯永・小関
62	へら跡	B	下書き	へら跡		田中
63	刃穴	B	刃穴・針穴	刃穴（4ヶ所ほど）		梅田
64	刃穴	B	刃穴・針穴	刃穴（4ヶ所ほど）		梅田
65	一里塚	B	下書き	一里塚の墨の下に朱で印		田中
66	村形へら跡	B	下書き	村形輪郭へら跡		梅田
67	一里塚	B	下書き	一里塚の墨の下に朱で印		梅田
68	へら跡	B	下書き	郡境にへら跡		梅田
69	へら跡	B	下書き	郡境にへら跡		梅田・田中
70	村形へら跡	B	下書き	村型輪郭にへら跡（へらか角筆で輪郭をとった跡？）		田中・
71	へら跡	B	下書き	道にへら跡		梅田
72	山描写	C	山・林など	山の描き方が一つ一つ違いリアル		小関
73	へら跡	B	下書き	道にへら跡		梅田・田中
74	一里塚	B	下書き	一里塚の墨の下に朱で印		梅田
75	池色	C	山・林など	池の色が濃い（池の色の描き分け、78との相違）		梅田
76	池色	C	山・林など	池の色が濃い（池の色の描き分け、78との相違）		梅田
77	へら跡	B	下書き	郡境にへら跡		梅田
78	池色	C	山・林など	池の色が薄い（うなき池、75.76と比較）		梅田・田中
79	木立	C	山・川など	木立を消した跡あり		田中
80	ハミ出し	B	画面・技法	山の色が海の部分にはみ出る（青〔藍〕を先に着色？）		小関
81	淡い海色	C	島・海・航路	海の青が淡い（海岸線に沿って遠浅の描写？）		田中
82	松	C	山・林など	松の色が違う（南側が緑青）		梅田・小関
83	埋瀬描き分け	C	島・海・航路	埋瀬（土色、85との表現の違い）、満潮時水没		梅田
84	段差有	B	画面・技法	マスキング時にできる段差（紙を貼って着色）		小関
85	埋瀬描き分け	C	島・海・航路	埋瀬（白色、83との表現の違い）、干潮時水没状態。これだけ彩色なし（特別？）史料編纂所本は85ピンク（大隅）、83土色（薩摩）か	史料編纂所本	梅田
86	へら跡	B	下書き	へら跡		田中
87	色剥れ	A	保存・伝来	顔料はがれ（畳んだ際に接触して111とともにのはがれたもの）		小関
88	埋瀬	C	島・海・航路	埋瀬		梅田
89	白煙	C	島・海・航路	白煙		田中
90	刃穴	B	刃穴・針穴	引っ掻いたような細かな傷が多数あり。刃先の跡。		梅田・田中
91	刃穴	B	刃穴・針穴	細かい穴		梅田・小関
92	刃穴	B	刃穴・針穴	細かい穴、穴の上から海の色を塗る		梅田・小関・田中
93	刃穴	B	刃穴・針穴	細かい穴、穴の上から海の色を塗る		梅田・小関・田中
94	白煙	C	島・海・航路	白煙		梅田・小関
95	島マスキング塗り	B	画面・技法	島をマスキング		梅田・小関
96	白煙	C	島・海・航路	白煙		梅田・田中
97	白煙	C	島・海・航路	白煙		梅田・田中
98	白煙	C	島・海・航路	白煙		梅田・田中
99	線種描き分け	C	島・海・航路	直線＝距離、曲線＝航路として線種書き分けか？		梅田
100	東西方向の刷毛目	B	画面・技法	刷毛目の方向（東西方向）		梅田・小関
101	板を渡して彩色か	B	画面・技法	上から板を渡して彩色した可能性高い		梅田
102	シミ甚大	A	保存・伝来	シミ甚（防虫剤が原因カ）		小関
103	破片	A	保存・伝来	破片、裏に花押（朱）		梅田
104	折返	B	紙拵え	折り返しがはがされてはみ出たもの		梅田
105	白煙	C	島・海・航路	白煙		田中
106	墨で朱線下書	B	下書き	黒線		田中
107	針穴	B	刃穴・針穴	針穴（カ）		梅田
108	墨で朱線下書	B	下書き	航路朱線の下に黒線の下書きあり		田中
109	へら跡	B	下書き	へら跡		田中
110	破損	A	保存・伝来	破損箇所		小関
111	剥離	A	保存・伝来	顔料はがれ（畳んだ際に接触して87とともにのはがれたもの）		小関
112	内閣文庫印	A	蔵書印	内閣文庫印		



⑭穴

⑮崖の描写

⑬塗りの技法

⑩航路線

⑰へら跡

⑪航路線に下書

肥後国

大國

⑱へら跡

北

②崖の描写

④崖の描写

③入船船数

⑦村形の色

⑩航路線に下書

⑥航路線に下書

⑤航路線に下書

⑨浜の描写

⑪村形の色

⑲一里塚

⑳木立

㉑松

㉒船

㉓潮入

㉔堤

㉕村名ルビ

㉖文字潭い

㉗橋

㉘ルビ

㉙ルビ

㉚ルビ

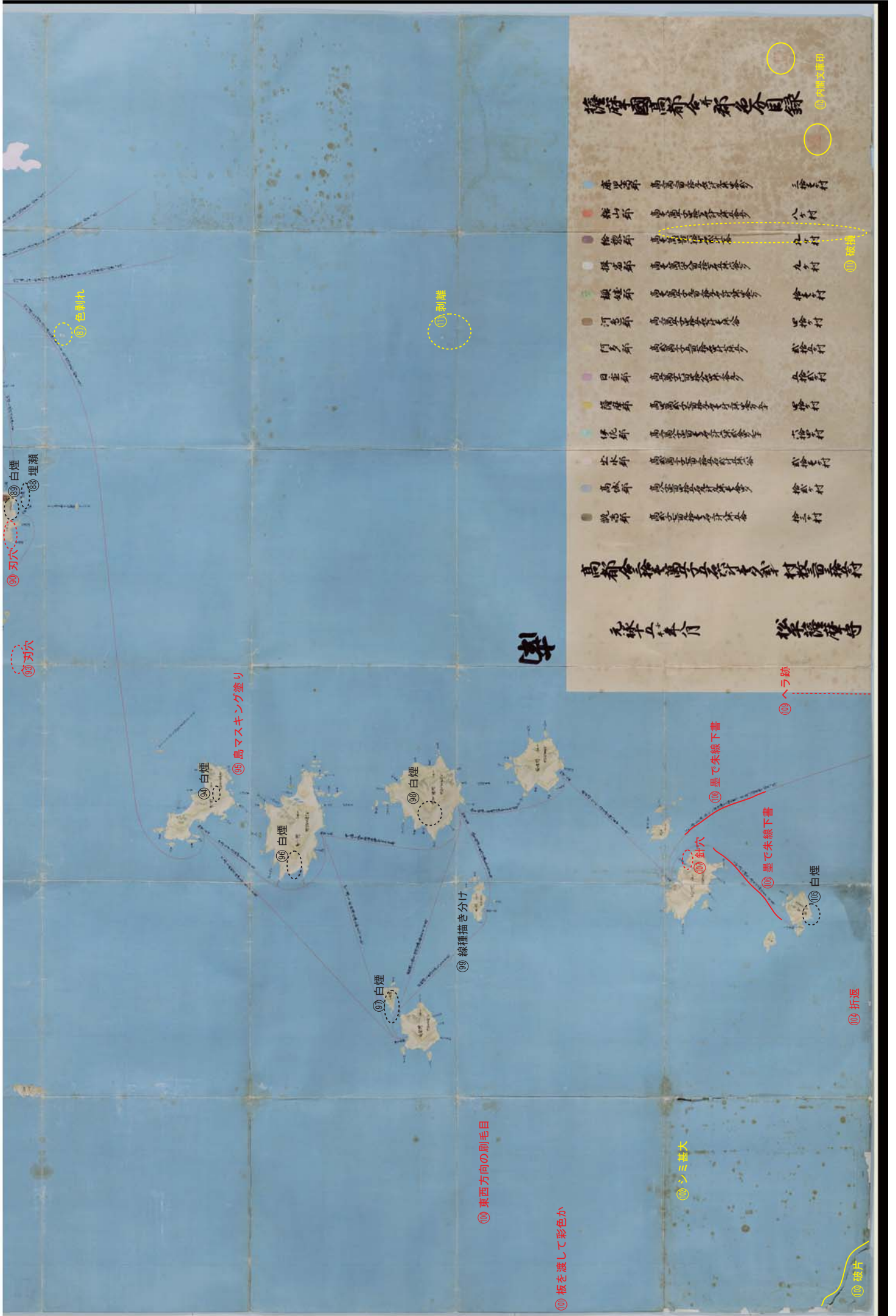
㉛ルビ

㉜ルビ

㉝歩渡

㉞朱の汚れ

㉟点描



薩摩國高都合郡名分目録

赤	鹿野郡	島高野郡	赤	重村
青	鏡山郡	島鏡山郡	青	八村
紫	陰徳郡	島陰徳郡	紫	九村
白	楢尾郡	島楢尾郡	白	九村
緑	柳屋郡	島柳屋郡	緑	九村
茶	河原郡	島河原郡	茶	八村
黄	門多郡	島門多郡	黄	八村
紫	日吉郡	島日吉郡	紫	八村
黄	薩摩郡	島薩摩郡	黄	八村
青	伊佐郡	島伊佐郡	青	八村
白	赤水郡	島赤水郡	白	八村
青	高嶺郡	島高嶺郡	青	八村
黒	既高郡	島既高郡	黒	八村

高都合郡名分目録

五峰五本行 松本薩摩守

率

① 破片

② 折返

③ へら跡

④ 墨で朱線下書

⑤ 墨で朱線下書

⑥ 針穴

⑦ シミ基大

⑧ 板を渡して彩色か

⑨ 東西方向の刷毛目

⑩ 線種描き分け

⑪ 白煙

⑫ 白煙

⑬ 白煙

⑭ 島マスクキング塗り

⑮ 刃穴

⑯ 埋瀬

⑰ 刃穴

⑱ 白刺丸

⑲ 刺離

田中葉子・橋本暁子

2. 天保薩摩国絵図（紅葉山本）調査所見

特 083-0001-138

調査日：2008年9月9日

架蔵番号：特 83-0001-138（薩摩・天保一紅葉山）

図名：（表紙）「薩摩國」、（裏表紙）「薩摩國」

①紙拵え

○料紙 触った感触：硬い 紙種：雁皮、裏打ちは美濃紙か

○折返：有、幅 1.4cm

折返しにより重なる部分では下になる紙を厚みを減らすためにカットしてある。

折返しをしてから裏打ちしている。

○紙継：1cm

○表紙：有、（表）77.2×60.5、（裏）77×60.3、厚さ 4.1cm

（墨書）「薩（14.9×10.6）摩（15.8×12.4）國（12.5×11.3）」

○蔵書印：有

②地図情報

A：保存・伝来

- ・ 元禄図と比較すると、左右の料紙の横幅がカットされている可能性あり。（34, 41）
- ・ 裏打ちは2回行っている。美濃紙か。

B：絵図作成手順

*画面・技法など

- ・ 海部分の刷毛の向きが東西方向。
- ・ 彩色の際、マスキングで島をくり抜いているのではないか。とくに海部分は、型紙を使ってマスキングで彩色し、沿岸部・小島・噴煙・航路は後から筆にて描き加えたか。（35）

*下書き

- ・ 角筆あり。
- ・ 航路に墨線の下書きあり。航路の朱線とは完全に重ならず、ずれる。（66）

*刃穴・針穴

- ・ 複数の針穴あり。北の端では、24.2×36cmの格子状に並ぶ。（1～22）
- ・ 紙の中央部では約48cmの間隔で針穴あり。いずれも12cmが基本単位か。但し32.5cm間隔の箇所もあり。（26, 33）

- ・ 二つ穴・三つ穴の針穴も有り。針穴を結んだ線は島の場所を確定させるものか→紙継図参照。(31, 56)
- ・ 他の針穴と位置的に対応しない針穴も有る。(1, 29, 32, 50, 60)

C：画像・文字記載情報

*城

- ・ 元禄図に描かれていた「古城跡」が描かれていない。(24)

*村形

- ・ 凡例で示された村形の色が元禄図と異なる。(76)
- ・ 日置郡の古城村と春山村の間・伊佐郡の山崎村の左・薩摩郡漆田村の南東に村形（色・字なし）あり。村形の彩色が乾かないうちに紙を折ったための転写か。(27, 37, 43)

*陸上交通

- ・ 元禄図と比べ、道の形が大きく異なる箇所あり。(42)

*島・海・航路

- ・ 島嶼部に噴煙の描写あり。火山を示すものか。(64,67)

*山・林など

- ・ 滝の書き込みあり。(25)
- ・ 元禄図と比べ、可ノ瀬川の河口の位置が異なる。(44)

*文字

- ・ 元禄図にあった「上甌島之内」との表記なし。(36)
- ・ 「人家是あり」の記載と島回りの記載は、備前天保（紅葉山）にはあり。薩摩天保にも「人家あり」と島回りの記載あり。しかし備前天保（勘定所）にはなし。

（文責：橋本・田中）

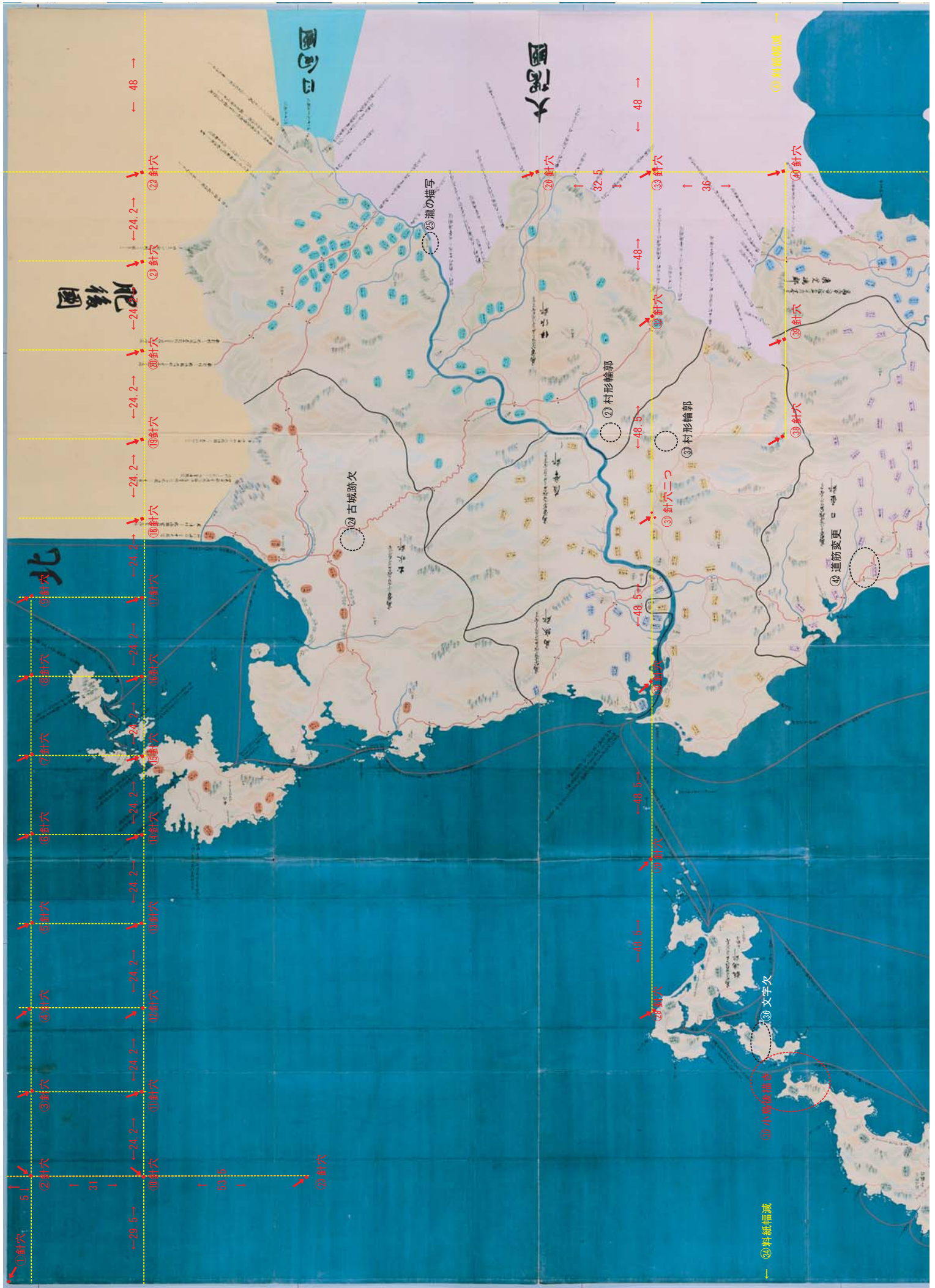
天保薩摩国絵図(紅葉山本)(国立公文書館所蔵 特083-0001-138)<詳細所見>

*「表記」は地図上の表記と、「見出し」は報告書の所見に一致する。

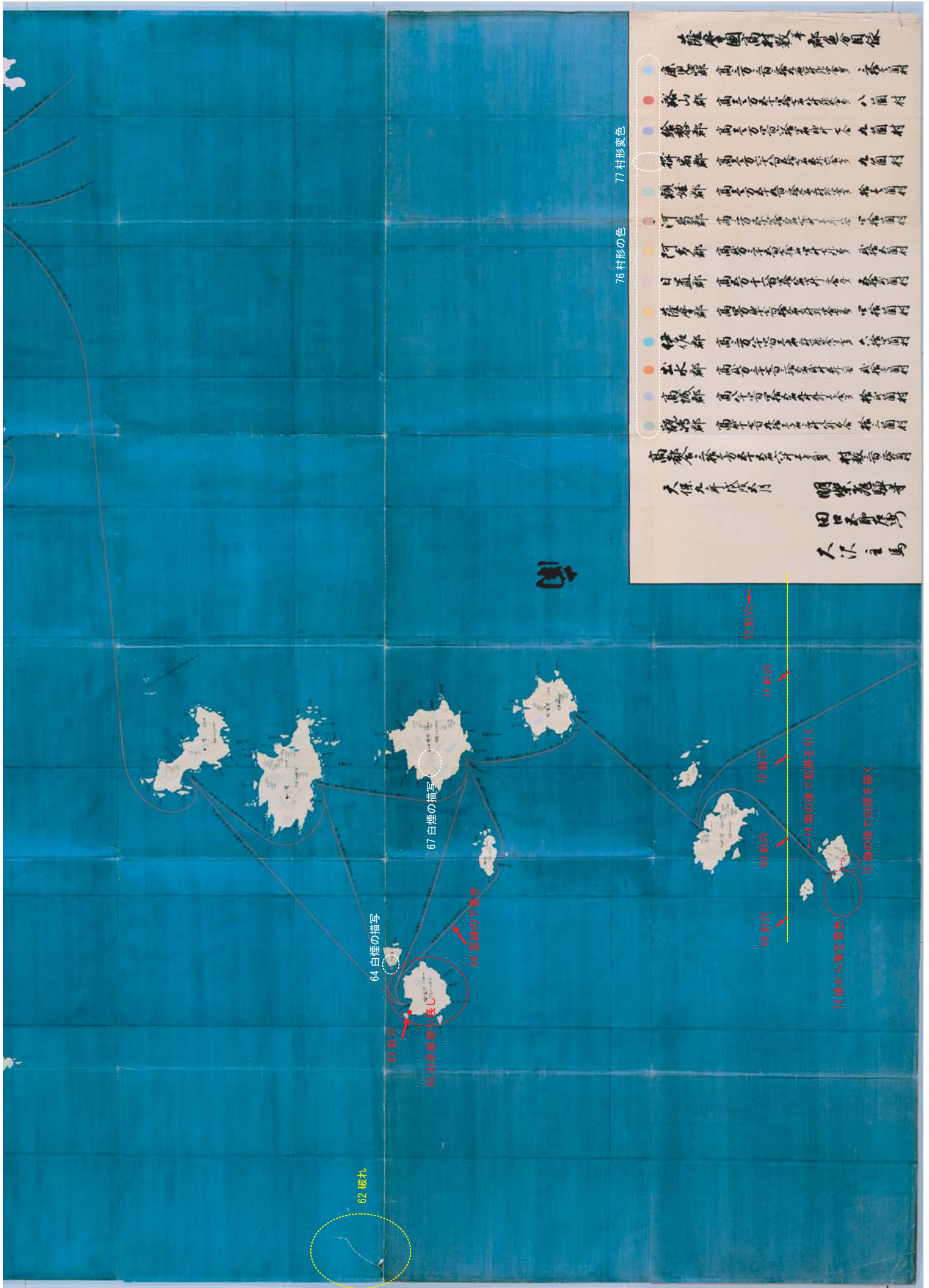
*A(黄) 保存・伝来:蔵書印、破損、修復/B(赤) 絵図作成手順:裏打ち、針穴、マスキング/C(黒/白) 画像・文字記
情報:ほかの絵図との比較、変色も含む。

番号	表記	分類	見出	内容	比較対象	記載者
1	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
2	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
3	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
4	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
5	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
6	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
7	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
8	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
9	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
10	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
11	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
12	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
13	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
14	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
15	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
16	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
17	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
18	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
19	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
20	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
21	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
22	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
23	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
24	古城跡欠	C	城	元禄図にあった出水村南東の「古城跡」なし。	元禄図	中野
25	瀧の描写	C	山・林など	曾木ノ瀧の描写あり。		中野
26	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
27	村形輪郭	C	村形	山崎村の南に、色・文字なしの村形あり。		磯永
28	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
29	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
30	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
31	針穴	B	刃穴・針穴	針穴二つあり。		橋本
32	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
33	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
34	料紙幅減	A	保存・伝来	元禄図と比べ、西部分料紙の幅がカットされている。	元禄図	小野寺
35	小島後描き	B	画面・技法	細かい島はマスキングではなく海色の上から描いた		横地
36	文字欠	C	文字	元禄図にあった「上甌島之内」との表記なし	元禄図	小野寺・中野
37	村形輪郭	C	村形	添田村の南東に、色・文字なしの村形あり		磯永
38	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
39	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
40	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
41	料紙幅減	A	保存・伝来	元禄図と比べ、東部分料紙の幅がカットされている。	元禄図	小野寺
42	道筋	C	陸上交通	元禄図と比べ、日置郡大里村を廻る道の曲がり具合が大きく異なる	元禄図	中野
43	村形輪郭	C	村形	日置郡の古城村と春山村の間に、色・文字なしの村形あり。		磯永
44	河口位置変更	C	山・林など	元禄図と比べ、可ノ瀬川の河口の位置が異なる。	元禄図	橋本
45	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
46	印	A	保存・伝来	内閣文庫印		橋本
47	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
48	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
49	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
50	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
51	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
52	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
53	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
54	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
55	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
56	針穴三つ	B	刃穴・針穴	三つ穴の針穴あり。		橋本
57	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
58	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
59	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
60	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
61	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
62	破損	A	保存・伝来	破れ		橋本
63	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本

番号	表記	分類	見出	内容	比較対象	記載者
64	白煙の描写	C	島・海・航路	小臥蛇島に噴煙の描写あり。		青木・倉地
65	沿岸部塗り残し	B	画面・技法	臥蛇島周辺部、輪郭線の外側に海の色塗り残しあり。		青木・倉地
66	墨線の下書き	B	下書き	航路に墨線の下書きあり。航路の朱線とはずれる。		橋本
67	白煙の描写	C	島・海・航路	諏訪ノ瀬島に噴煙の描写あり。		橋本
68	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
69	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
70	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
71	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
72	針穴	B	刃穴・針穴	針穴あり。		橋本
73	後から海を着色	B	画面・技法	海の色を後から塗る。塗り方は雑。		橋本
74	海の後で航路を引く	B	画面・技法	航路は海の色の後から描く。		橋本
75	海の後で白煙を描く	B	画面・技法	噴煙は海の色の後から描く。		橋本
76	村形の色	C	村形	村形の色が元禄図と異なる。		橋本
77	村形変色	C	村形	楯宿郡村形の肌色は汚れか？変色か？		荒井





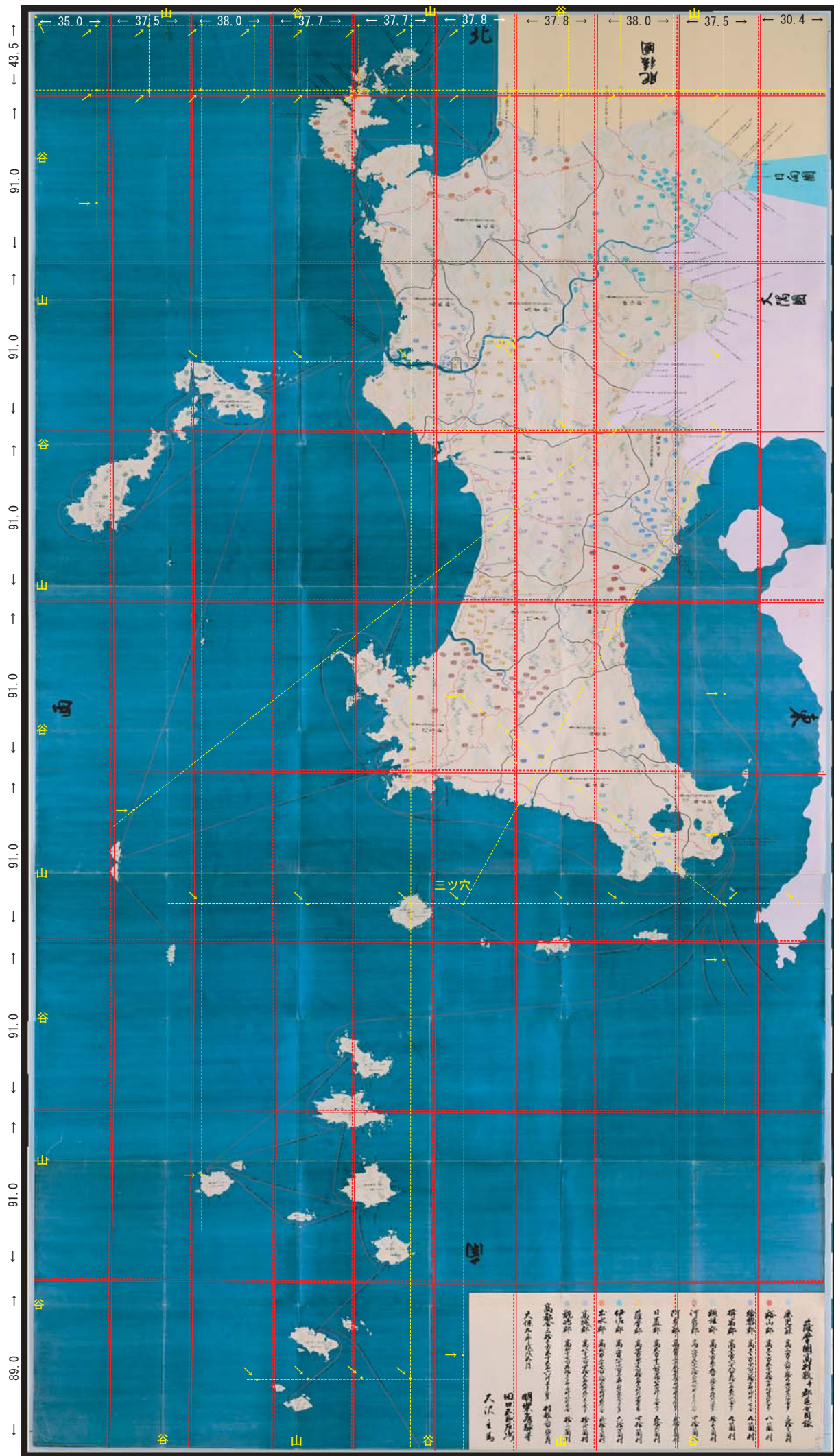


77 村形変色

76 村形の色

- 薩摩国高野郡等郡色分国図
- 麻里郡 高野方百餘里外非多 赤色
 - 嶺山郡 高野方百餘里外非多 八箇村
 - 繪巻郡 高野方百餘里外非多 九箇村
 - 研島郡 高野方百餘里外非多 九箇村
 - 網走郡 高野方百餘里外非多 拾五箇村
 - 河島郡 高野方百餘里外非多 拾五箇村
 - 阿多郡 高野方百餘里外非多 拾五箇村
 - 日通郡 高野方百餘里外非多 拾五箇村
 - 薩摩郡 高野方百餘里外非多 拾五箇村
 - 伊佐郡 高野方百餘里外非多 拾五箇村
 - 志水郡 高野方百餘里外非多 拾五箇村
 - 高嶺郡 高野方百餘里外非多 拾五箇村
 - 観音郡 高野方百餘里外非多 拾五箇村
- 高野方百餘里外非多 朝教高野方

天保九年戊辰五月 明樂齋解舟
 大沢玄馬



横地留奈子

3. 天保備前国絵図（勘定所本）調査所見

特 083-0001-96

調査日：2008年9月9日

架蔵番号：特 83-0001-96（備前・天保一勘定所）

全体の大きさ 縦 320.0 横 373.2cm

図名：（表紙）「備前」

①紙拵え

○料紙 触った感触：硬い 光沢：無し、色あせ つるつる感：有

紙種所見 ガンピ（雁皮）系／斐紙系 間似合

○折返：有、幅 1.2cm

折返しは表紙を折り込んでいる。裏打ちしてから折返しか。裏打ち有り。

○表紙：有、表 縦 75.3×横 53.2（cm）、裏 縦 75.0×横 54.1（cm）

料紙 30.0cm × 45.6cm

（墨書）「備」字 縦 2.2×横 2.2 「前」字 縦 3.0 ×横 2.1

○蔵書印：有 「内閣文庫」「内務省文庫」各 1

木札無し

②地図情報

A：保存・伝来

- ・ 題僉裏の糊のせい、その部分の絵図面にたわみが生じている。
- ・ 折り返し部分に着色あり。
- ・ 虫喰い有。
- ・ 折り目に痛み、四ッ折箇所がとくに痛んでいる。
- ・ 全体にくすみあり。全体的に色がくすんでいる（使用頻度が高いためか）褪色しており、使用痕あり。
- ・ 播磨国国境付近の地色が茶色っぽい。播磨国領域の白緑青焼けと思われる
- ・ 54.4～54.8の升目あり（8寸）。鉛筆による後筆か。

B：絵図作成手順

*下書き

- ・ 和気郡の村形は、うす墨で場所のあたりをつけて、村形を書いている。

*画面・技法など

- ・ 他国色分け境に、それぞれ色の段差がある。（色の厚みがみられる）
- ・ マスキングが行われている。（10）

*針穴

- ・ 一ツ穴・二ツ穴の複数の針穴あり。相互の位置関係に法則性は見られず。(45, 49, 60, 77 ~79)

C：画像・文字記載情報

*体裁

- ・ 紅葉山よりも元禄に近い描き方である。(元禄の描き方のほうが繊細)

*文字

- ・ 元禄図と異なる表記が見られる。

*海・島・海上

- ・ 元禄図には描かれていない島が多く描かれている。
- ・ 元禄図には描かれていない塩田が多く描かれている。
- ・ 大槌島には南北の境界線が引かれ、北-「備前国之内」・南-「讃岐国之内」となっている。

*山・川など

- ・ 川・国境は、薄墨で輪郭を引いて色をぬり、線を改めて引く手順。
- ・ 元禄・紅葉山にはない一里塚の記載が見られる(67)

*村形

- ・ 元禄図にはない新田・枝村・村形の表記が見られる。
- ・ 境界線が部分的に実線で引かれている。実測した部分か。
- ・ 紅葉山図よりも村形の色が薄い箇所がある。

*境界

- ・ 備中との境界の一部では実線が引かれている。

*道

- ・ 元禄図と道の形や備中との境界の一部では実線が引かれている。
- ・ 元禄・紅葉山図にはない一里塚が描かれている。

(文責：横地)

天保備前国絵図(勘定所本) 国立公文書館所蔵特083-0001-96<詳細所見>

*「表記」は地図上の表記と、「見出し」は報告書の所見に一致する。なお、番号は後掲地図に対応。

*A(黄) 保存・伝来:蔵書印、破損、修復/B(赤) 絵図作成手順:裏打ち、針穴、マスキング/C(黒/白) 画像・文字記載情報:他の絵図との比較、変色も含む。

番号	表記	分類	見出し	内容	比較対象	記載者
1	文字	C	文字	元禄では「江」だが本図では「迄(迄)」。また、「小豆島」までの里程は、天保では他と同じ高さで書かれているが、元禄では位置が下。	元禄	横地・平井
2	波止	C	海・島・海上	波止の堤が描かれている。元禄図に比べ、文字の位置が東に寄っている。また、文字は小さい。	元禄	青木・平井
3	村形	C	村形	元禄にはない枝村が描かれている。	元禄	平井
4	文字	C	文字	紅葉山には「八嶋」の記載なし(元禄、本図には記載有)。また、元禄には「水下」の記載場所が異なる(元禄「此はへ水下干潮二尺」本図「此はへ干潮時水下二尺」)	紅葉山	横地・平井
5	文字	C	文字	「人家有之」の記載。元禄には「人家有之」の文字なし。	元禄	平井
6	島	C	海・島・海上	島の中央で南北に塗り分けられている。元禄には、南北の所属と島の中央の境界線が描かれていない。当時は境界が未解決だったためか。	元禄	横地
7	文字	C	文字	元禄では文字の下に色がつけられている。	元禄	磯永
8	文字	C	文字	元禄では松島近くの文字表記なし	元禄	磯永
9	島	C	海・島・海上	元禄にはない島の表記	元禄	横地、磯永
10	表現	B	画面・技法など	マスキングのあと(型染めの方法)		横地
11	文字	C	文字	元禄には「長濱村トモ云」の文字有	元禄	磯永
12	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
13	島	C	海・島・海上	元禄にはない島の表記	元禄	磯永
14	文字	C	文字	元禄では海岸線に沿って縦書き	元禄	平井
15	塩田	C	村形	元禄には記載がない	元禄	横地
16	塩田	C	村形	元禄には記載がない	元禄	横地
17	塩田	C	村形	元禄には記載がない	元禄	横地
18	文字	C	文字	元禄には「是ヨリ奥干潟」の記載有	元禄	平井
19	塩田	C	村形	元禄には記載がない	元禄	横地
20	文字	C	文字	元禄には「濱通遠浅」の記載有。本図には無し。	元禄	磯永
21	表現	C	表現	元禄に有る松の表記がない	元禄	磯永
22	村形	C	村形	元禄にはない枝村	元禄	平井
23	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	平井
24	村形	C	村形	元禄にはない枝村	元禄	平井
25	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	横地、磯永、平井
26	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
27	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
28	島	C	海・島・海上	元禄にはない島の表記	元禄	磯永
29	島	C	海・島・海上	元禄にはない島の表記	元禄	磯永
30	島	C	海・島・海上	元禄にはない島の表記	元禄	磯永
31	島	C	海・島・海上	紅葉山とは異なる表記方法	紅葉山	横地
32	島	C	海・島・海上	元禄にはない島の表記	元禄	磯永
33	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
34	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
35	砂洲	C	砂洲	元禄に有る砂洲がない	元禄	横地
36	文字	C	文字	元禄には「遠干潟」の記載有	元禄	磯永
37	境界線	C	境界	境界線が部分的に実線で引かれている。実測した部分か。		横地
38	新田	C	村形	元禄にはない新田の表記	元禄	横地
39	島	C	海・島・海上	元禄にはない島の表記	元禄	磯永
40	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
41	文字	C	文字	文字方向が天地逆	紅葉山	横地
42	島	C	海・島・海上	元禄にはない島の表記	元禄	磯永
43	島	C	海・島・海上	元禄にはない島の表記	元禄	磯永
44	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
45	針穴	B	針穴	二ツ穴		横地
46	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
47	体裁	A	保存・伝来	色写り(村形力)		横地
48	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
49	針穴	B	針穴	一ツ穴		横地
50	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
51	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
52	体裁	C	保存・伝来	元禄は印なし	元禄	磯永
53	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
54	道	C	道	元禄とは道がやや異なる	元禄	磯永
55	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
56	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	磯永
57	色	C	村形	色がハゲている。紅葉山と色が異なる(薄い)	紅葉山	横地

58	色	C	村形	紅葉山より色が薄い	紅葉山	横地
59	枠	C	文字	紅葉山と枠の大きさが異なる	紅葉山	横地
60	針穴	B	針穴	一ツ穴		横地
61	文字	C	文字	元禄と石高・署名が異なる	元禄	平井
62	文字	C	文字	元禄には「此所ヨリ山伏越ノたわ出口道際迄之間山国境不相知」の表記有	元禄	平井
63	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	平井
64	家屋	C	その他	この図では数少ない建物の表記。寺院「東岳		横地
65	道	C	道	紅葉山より道を長く表記	紅葉山	礪永
66	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	礪永
67	一里塚	C	道	元禄・紅葉山にはない一里塚の記載	元禄・紅葉山	横地
68	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	礪永
69	文字	C	体裁	紅葉山よりも元禄に近い描き方(元禄の描き方のほうが繊細)	元禄・紅葉山	横地
70	村形	C	村形	元禄にはない村形	元禄	礪永
71	文字	C	文字	元禄には「右ハ河間村」の表記がある	元禄	礪永
72	木	C	木	元禄と木の描き方が異なる	元禄	礪永
73	山	C	山・川など	描き方が異なる	紅葉山	横地
74	山	C	山・川など	元禄と石佛山の方向が異なる	元禄	礪永
75	道	C	道	元禄と道の描き方が異なる	元禄	礪永
76	山	C	山・川など	描き方が異なる	紅葉山	横地
77	針穴	B	針穴	針穴		横地
78	針穴	B	針穴	針穴		横地
79	針穴	B	針穴	針穴		横地
80	村形	C	村形	村形の形が、紅葉山より大きく色が濃い	紅葉山	横地

